

フランス語紹介

日本を訪れる外国人は2018年ついに年間3100万人を超え、街中でも様々な言語を耳にするようになりました。フランス語も耳にする機会が格段に増えています。実際、訪日外国人の統計上、ヨーロッパの国別で英国について2番目に多いのがフランスになっています(2018年で年間30万人)。フランスでも日本に対する関心はますます高くなっており、アニメから伝統文化に至るまで、より広くより深く日本を知ろうとしているフランス人がやって来ています。日本国内でもフランス語を使う機会が、東京オリンピックを控えてこれからも増えることになるでしょう。

ところで近代オリンピックは、フランス人クーベルタンが発案から始まり、IOC国際オリンピック委員会の公用語は英語とフランス語の二本立てです。IOCだけでなく国連やEU欧州連合のような国際機関でも重要な言語となっています。また、かつての植民地支配のなごりで世界各地にフランス語が公用語や教育の言語となっている国々がたくさんあります。アフリカやオセアニアに関心のある人にも役立つ言語です。

フランス語は、言語的には、スペイン語・イタリア語と同じく、ラテン語から生まれた言語です。しかし歴史的に、イギリスとフランスは深いつながりがあり、英語の語彙にはフランス語から入った語が驚くほど多数あります。発音の点では、英語のような強弱が弾むように続く言語とは違って、タタッ、タタタッという感じでほぼ均等にシラブルが続きます。アクセント(強勢)の位置は常に一定、また綴りと発音の関係も規則化されていますので、初見の語彙でも正確に発音を知ることができます。母音や子音の発音の仕方もコツさえわかれば決してむずかしいものではありません。文法構造は、スペイン語やイタリア語と同様で、体系化されています。学び始めは少し大変ですが、途中から単純な原理の応用にすぎなくなるので、比較的少ない基本語彙をマスターすればどんどんフランス語がわかるようになると思います。



ドラクロワ：民衆を導く「自由」

1年生の皆さんへおすすめ：基礎A、Bと並行して、「フランス語演習コミュニケーションI(前期)・II(後期)」(自由選択科目)を履修登録して会話力をさらに伸ばしましょう。

検定試験について

実用フランス語技能検定試験(仏検、DAFP)：公益財団法人フランス語教育振興協会 {<http://apefdapf.org/>}

大学の基礎科目をきちんと学習していれば、仏検5級の11月の試験で合格水準に達するはずです。

フランス国民教育省認定フランス語資格試験(DELFDALF)：日本フランス語試験管理センターが実施 {<http://www.delfdalf.jp/>}

基礎科目にプラスして会話の科目や2年次の科目をきちんと学習すれば、2年次でA1レベルの秋の試験で合格水準に達するはずです。

留学について

長期協定留学(1年間)

秋派遣：リヨン第3大学(フランス) {<https://www.univ-lyon3.fr/>}、説明会は前年10月。

認定留学などについては、成蹊大学国際教育センターのウェブサイトをご覧ください。

そのほかサマースクールなどフランスでの語学研修は豊富にあります。